

もしも危険が迫ってきたら…。

西日本を中心に大きな被害をもたらした「平成30年7月豪雨」では、連続して発生・発達する積乱雲により、記録的な大雨を観測し、未曾有の大災害となりました。

風水害においては、避難が可能なうちに安全な場所へ避難することが大切です。災害の危険が迫ったときは、区役所が発令する避難勧告等の情報を収集し、素早く避難しましょう。また、避難勧告等の発令がなくても、身に危険を感じた場合は安全な場所に避難してください。避難勧告等の情報が発令された場合、対象地域の近くにある小中学校などが避難所として開設されます。

避難勧告等に関する情報は、次の方法により入手することができます。

★泉区役所ウェブサイト

★泉区役所Twitter

●横浜市防災情報Eメール

●緊急速報メール・エリアメール※1

●Yahoo! 防災速報※2

●テレビやラジオによる放送

★広報車による巡回広報

避難に関する情報のほか、気象警報・注意報や豪雨情報、土砂災害警戒情報、地震情報などの防災に関する情報を登録いただいたメールアドレス宛に配信します。是非ご登録ください。

登録方法 下記のアドレスにメールを送信すると案内メールが届きます。案内メールの手順にしたがい登録してください。

✉ entry-yokohama@bousai-mail.jp



★ 開設されている避難所の情報は、★マークから入手することができます。※1 対象エリア内で緊急速報メールに対応する携帯電話(スマートフォン)をお持ちの方のみ配信されます。(登録は不要です。) ※2 ご利用にはアプリのインストールや、パソコンまたは携帯での登録が必要です。

避難に関する情報の種類と行動の目安

避難準備・高齢者等避難開始

行動の目安

- いつでも避難できるよう準備
- 身の危険を感じる人は避難開始
- 避難に時間を要する方(高齢者など)は避難開始

避難勧告

行動の目安

- 避難場所へ避難
- 地下空間にいる人は速やかに安全な場所へ避難
- 外へ避難することでかえって危険が及ぶ場合は自宅内のより安全な場所(2階など)へ避難

避難指示(緊急)

行動の目安

- まだ避難していない場合は直ちにその場を離れる
- 外へ避難することでかえって危険が及ぶ場合は自宅内のより安全な場所(2階など)へ避難

風水害に関する問合せ先

避難に関すること	泉区役所総務課	☎045-800-2309
被害の発生に関すること		
がけ(土砂災害)に関すること	泉消防署	☎045-800-0119
り災証明書に関すること		
河川に関すること	泉土木事務所	☎045-800-2536
公道に関すること		
人命に関すること	☎119	

もしも被害を受けたら…

風水害等で被害を受けた場合、消防署からり災証明書の発行を受け、区役所の担当窓口へ提出することで救済・支援制度等が適用される場合があります。詳細は泉区役所ウェブサイトをご覧ください。

⇒泉区役所ウェブサイト <http://www.city.yokohama.lg.jp/izumi/14lifestage/kasaitou-higai.html>

異常気象への備え

急な大雨・雷・竜巻から身を守るために

自宅付近や避難場所(小中学校など)までの経路上の浸水による危険性を確認し、災害に備えましょう!!

浸水ハザードマップは、泉区役所総務課(3階305窓口)で配布しています。また、泉区役所ウェブサイトからも確認できます。

🔍 [横浜市泉区 ハザードマップ](#) 検索



泉区役所総務課

積乱雲が引き起こす災害

積乱雲が引き起こす急な大雨・雷・竜巻による災害は前もって予測することが難しいのが特徴です。近年では、局地的豪雨(いわゆるゲリラ豪雨)による河川の洪水や地下施設の浸水の他、落雷・竜巻による被害が多く発生しています。

このような災害から身を守るためには、積乱雲が近づく前兆を知り、命を守るための行動を身に付けることが大切です。

大雨・雷・竜巻による災害



気象庁ウェブサイトより

積乱雲の発生・発達

上空に冷たい空気がある状態で、地上の湿った空気が暖められると、上空と地上の温度差により空気の対流が発生します。暖かく湿った空気は、上昇することで水蒸気を多く含んだ雲となり、やがて大きな積乱雲へと発達します。一つの積乱雲がもたらす影響は、30分~1時間程度ですが、積乱雲が次々に発生・発達し、同じ場所を通過することで、1時間に数十mm、数時間で100mm~数百mmの集中豪雨を引き起こすこともあります。特に、地上付近の湿った空気が暖まりやすい夏場や、台風や前線などの影響により、南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい時は、積乱雲が次々に発生・発達し、大規模な災害を引き起こすことがあるため、注意が必要です。

積乱雲のでき方



動画はこちら
(気象庁ウェブサイト)

降雨量の目安

1時間に10~20mm ザーザーと降る	1時間に20~30mm どしゃ降り	1時間に30~50mm バケツをひっくり返したように降る	1時間に50~80mm 滝のように降る	1時間に80mm以上 息苦しくなるような 圧迫感・恐怖を感じる

積乱雲が近づく兆し



気象庁ウェブサイトより

積乱雲が発達すると、夏場によく見られる入道雲のように大きく鉛直方向(縦方向)に伸びる雲となります。実はこの入道雲も、発達した積乱雲です。発達した積乱雲は、遠くにある時は白く見えますが、近づいてくると黒く見えます。また、積乱雲が近づくにつれ、雷の音が聴こえたり、冷たい風が急に吹き始めたりします。このような積乱雲が近づく前兆を察知したら、急な大雨・雷・竜巻による災害の恐れがありますので、すぐに安全な場所(屋内)へ避難し、情報収集をすることが大切です。

防災豆知識

お出かけ前に要チェック。「大気の状態が不安定」

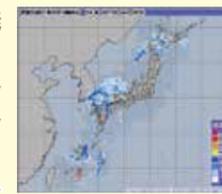
天気予報でよく聞く「大気の状態が不安定」、この言葉は、上空に冷たい空気があり、地上には暖められた空気の層がある状態を意味します。積乱雲が発生しやすい状況のため、アウトドアなどのレジャー、野球やサッカーなどの屋外でのイベント、田畑など開けた場所での農作業などに出かける際は、注意が必要です。少しでも積乱雲が近づく兆しを察知したら、すぐに安全な場所に避難しましょう。

気象庁レーダー・ナウキャスト (降水・雷・竜巻)

降雨の予測や、雷、竜巻の発生の可能性を閲覧できます。積乱雲が近づく兆しを察知したら、情報を集め、状況に応じた行動をとりましょう。

Q 気象庁レーダー・ナウキャスト 検索

<https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>



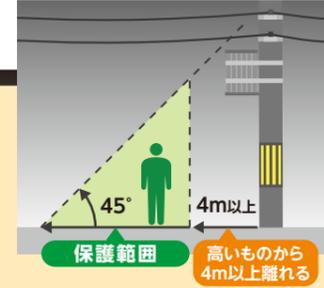
気象庁ウェブサイトより

積乱雲 接近中の町の中 こんなところに危険が!

雷が鳴っている場合

田んぼやグラウンド、公園などの開けた場所

平成29年8月の多摩川花火大会では、会場近くの河原に雷が落ち、地面を伝わった雷の電流で、9人がけがをする事故が発生しました。田んぼや畑、グラウンドやゴルフ場、屋外プールや砂浜など、周囲に何も開けた場所は、雷による被害を受ける可能性が高く危険です。雷の音が聞こえたら屋内や車の中など、すぐに安全な場所に避難しましょう。



防災豆知識

雷が鳴っている場合、木の下や雨宿りは雷の被害を受ける可能性が高く、とても危険です。木や電柱などの高いものからは4m以上離れるようにしましょう。

線路や道路の高架下など、周囲より低い場所

道路の冠水に注意が必要です。車両に浸水し、動けなくなる可能性があります。見た目では水の深さがわからない場合があるので、通行は避けましょう。



リーフレット「急な大雨・雷・竜巻から身を守る」(気象庁)を加工して作成

川の近く

増水により、急激に川の流が激しくなる可能性があります。積乱雲が近づいてきたら、川のそばから離れましょう。特に、川沿いでのキャンプやバーベキューは、中州に取り残され、逃げ場がなくなる可能性があります。

また、自宅への浸水が心配される場合は、早めに土嚢を準備し、浸水に備えましょう。

防災豆知識

親水拠点など、川沿いで子どもの利用が多い場所には、警報装置が設置してあり、大雨洪水警報や一定基準の雨量を観測した場合に赤いランプが点灯し、スピーカーから音声がかかります。赤いランプが点灯していたら、川に近づかないようにしましょう。



駐車場やデパート、地下鉄などの地下施設

非常に激しい雨(時間50mm~80mm程度)の場合、地下に水が流れ込んでくる場合があり、注意が必要です。



出典:九州地方整備局

もし竜巻が発生したら...

- 飛んでくる物に注意しながら頑丈な建物の中に避難
※車庫・物置・プレハブへの避難は危険です。
※避難できない場合は、物陰やくぼみに身を伏せましょう。
- 屋内では、雨戸やカーテンを閉め、窓や壁から離れましょう
※窓の近くは、窓ガラスが割れた場合にけがする場合があります。
※できる限り、窓のない1階の部屋へ移動しましょう。
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。

